

「喜びが満ちあふれるために」

詩篇 第40篇 11節～13節
ヨハネによる福音書 第17章 6節～19節

説教 岡村 恒牧師

「わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるため」(13節)。主イエス・キリストが、十字架に架けられる前夜に祈られた〈大祭司の祈り〉の中の言葉です。この祈りを、弟子たちに聞かせるように、叫ぶように祈られた理由は一つです。「これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるため」(13節)です。

弟子たちがこれから歩む苦難の道、私たちが地上を歩むその旅路の中で、繰り返し悲しみに出会い、絶望する時のために、主イエスはこの祈りを祈って下さいました。そして、主イエスが与えて下さる〈喜び〉が私たちを一杯に満たす、と約束して下さいました。

3年余り、主イエスと一緒に歩んできた弟子たちは、主イエスがただの人間ではないこと、神の力をお持ちであることをよく知っていました。ところが、主イエスとの別れや、迫ってくる迫害に心が捕らえられて、すぐ側におられる主イエスを見続けることができず。そこで主イエスは、「真理によって彼らを聖別して下さい。」(17節)と祈られました。神が選び、主イエスに与えて下さった弟子たちを、この世から取り分けて〈聖なるもの〉として下さるようにと、ひたすら弟子たちのために祈られたのです。

主は、今ここにいる私たちのことを、「あなたが世から選んでわたしに賜った人々」(6節)と呼んで下さいます。日常生活の中で、繰り返し恐れや不安にとらわれてしまう私たちを、主イエスはよくご存知です。だから、この私たちのために、〈彼らを守って下さい〉と願って下さいました。

主イエスに「わたしのもの」と呼ばれた弟子たちは、主イエスがこの後、捕らえられると一斉に逃げ出しました。「あなたのためには、命も捨てます。」(ヨハネによる福音書 13章37節)とまで言い切ったペテロでさえ、三度も主イエスを「知らない」と言うことになります。主イエスは、この弟子たちの弱さ、私たちの信仰が頼りないことをよくご存知でした。だからこそ、私たちのために、「彼らを守って下さい」、「彼らを聖別して下さい」と祈って下さったのです。

主イエスと寝食を共にして来た弟子たちは、主イエスが神の御もとから来られたことをよく知っていました。しかしそれでもなお、弟子たちはこの世のものでした。自分の知識や経験からしか、主イエスのことを受け止めることがで

きませんでした。それで、主イエスとの別れに浮き足立ち、悲しみを抱えていました。主イエスは、「わたしはあなたからいただいた言葉を彼らに与え」(8節)たと言われます。その言葉を受け取って、弟子たちは信仰を抱くようになったと宣言しておられます。

主イエス・キリストはわざわざ地上にまで来て下さって、口移しで教えるようにして神の言葉を弟子たちにお語りになりました。聖霊なる神に助けられてこの言葉を聞き続ける時、私たちも神を信じ、この世から聖別されて、主イエスに固く結びつけられます。このことは〈洗礼〉において実現します。洗礼を授けられた者は、ただ神の言葉だけに全身全霊をかけて生き始めるようになるからです。洗礼を受けると、イエス・キリストのもの、〈クリスチャン〉と呼ばれるようになります。この世のものではないので、神の力以外の一切のものから解放されます。「彼らを私の手から奪い去る者はない」(ヨハネによる福音書 10章28節)と主イエスが宣言して下さいました通りになるのです。

主は私たち一人一人を選び取り、ご自分のものとして下さいます。聖餐の食卓を囲む時、私たちは、自分がこの地上につなぎとめられた者ではないことを確認します。地上にいながら、主イエスだけが与えて下さる命によって生かされ、やがて終わりの日、神の国の食卓につく者であることを確信します。

今日、世界聖餐日に、世界中のキリスト者と共に食卓を囲んでいます。ただお一人の主を信じ、一つの命と一緒に生きていることを、この食卓で確認しています。この食卓を実現するために、主イエスはあの夜、祈って下さいました。主イエスのご受難は、主を信じる者に尽きることはない喜びを注ぎ入れ、満たして下さいました。信仰者は、やがて終わりの日、主イエスと同じ栄光の姿に変えられ、主イエスと一緒に食卓につく日を心待ちにしながら、この地上の旅を喜びをもって歩むことができます。この救いの喜びが、さらに広がり、豊かにあふれるように祈りつつ歩みます。主イエスが十字架にお架かりになり、私たちをご自分のものとして下さったことを感謝して主を讃美します。

(記 岡村恒牧師)